行動計量学会通

日本行動計量学会事務局
東京都港区南麻布4－6－7
統計数理研究所　村上研究室

小学校からの行動計量学会

市川伸一

いろいろな学問分野の専門家が教育について何か提言めいたことを言おうとするときには，自分たちの分野の基礎をもっと取り入れてほしいというような傾向があるように思う．実際，既存の有力な科学である，数学とか物理学とか生物学なども，それぞれの学問体系を高校，中学校，小学校におろしてきて，基礎から積み上げていくような形でカリキュラムが組まれている．一方では，「子どもの発達段階」を考慮に入れなくてはならないので，学年が低いうちは妥協的なものにならざるを得ないが，ともかく，それぞれの学問の基礎を初等・中等教育でやってほしいという気もちには変わりがない．

かくいう私自身も，この10年ほど教育に対してはたらきかけてきたことというのは，自分の専門である心理学を，内容的にも，方法的にも，学校教育の中でとりあげてほしいということであった．内容というのは，知覚，認知，学習，発達，パーソナリティ，…といった大学の教養課程で行っているようなことを，小学校高学年くらいから教えられないかということである．しかしこれは，けっして，心理学の社会的地位を高めたいとか，心理学専攻の卒業生が職を得られるようにという「専門エゴ」からではなく，思春期の児童・生徒たちにとって，十分興味を喚起する学習内容になると信じているからである．

方法的ということになると，これはまさに，行動計量学である．たとえば，小学校からでも，ヒストグラムによって分布傾向をつかんだり，散布図によって相関関係を把握することなどは，ぜひやってほしい．中学校であれば，要約統計量の使い方や使用上の注意，高校になれば，推定・検定，回帰分析と分散分析の基礎くらいを行う．これもまた，「そこまでやっておいてくれると，大学で教えるほうとしては助かるから」ではないのである．社会現象や心理現象をデータに基づいて議論しようとするときに，現代人にとって必要不可欠な素養になるからにほかならない．

「小学校からの行動計量学」などというのは，絵空事のように思われるかもしれないが，今は，時代の必然とでもいうべき追い風が吹いている．一つは，コンピュータと優れた統計ソフトウェアの普及によって，実際にデータを扱いながら実践的に学ぶという学習が可能になったことである．もう一つは，教育課程審議会の答申でも「総合的な学習の時間」の設置が認められ，自ら設定したテーマについて，実験や調査を通して身近な現象を追究するような学習が奨励されるようになったことである．

もちろん，追い風がいくら吹いても，帆を張らなければ船は動かない．行動計量学の学問的な蓄積が，一般市民を育てるための教育の中にはいっていくためには，「自分たちの卵を育てたい」というのとはまた違った努力が必要であり，それがテキストやカリキュラムといった形で結実していかなければならないだろう．これまでの学術的発展のみならず，社会的発展を前にして，行動計量学に何ができるか，何をすべきかを考える時が来ているように思う．

（いちかわ しんいち，東京大学教育学研究科）

第26回日本行動計量学会大会

日本行動計量学会第26回大会が，9月16日より18日まで立教大学池袋キャンパスで開催されます．会員の方々の多数の参加をお待ちしています．

本大会に関する最新情報については，大会ホームページ

http://www.ir.rikkyo.ac.jp/bsj98/

をご覧ください．なお，本大会に関する問い合わせは，立教大学社会学部山口和範(TEL:03-3985-2325, FAX:03-3985-2833, e-mail:kyamagu@rikkyo. ac.jp)まで．

公開シンポジウム開催のお知らせ

日本行動計量学会第26回大会開催の前日には，大会会場と同じ立教大学池袋キャンパスの7号館7101教室で，公開シンポジウム「巨大システムと人間行動 ー人為ミスは，巨大システムへの人間の側からの反抗かー」が開催されます．

日時：1998年9月15日(祝日)14:00-16:00
場所：立教大学池袋キャンパス7号館1階7101教室
講演者：海保博之(筑波大学)，吉野賢治(電力中央研究所)，稲垣敏之(筑波大学)，行待武生(慶応大学)
講演演題：
「ヒューマン・エラーの発生を予測する」
「システム側からみた人為ミスー ー自動化のパラドックス」
「原子力発電所におけるヒューマン・エラーの特徴」

なお，参加費は無料です．奮ってご参加ください．

この公開シンポジウムは日本行動計量学会・日本学術協力財団共催，豊島区後援で行われます．

公開シンポジウムに関する問い合わせは，立教大学社会学部山口和範(TEL:03-3985-2325, FAX:03-3985-2833, e-mail:kyamagu@rikkyo.ac.jp)まで．

チュートリアルセミナー開催のお知らせ

「行動計量学におけるインターネットの利用」と題したチュートリアルセミナーを開催します．

日時：1998年9月15日(祝日)13:00-15:00
場所：立教大学池袋キャンパス7号館2階コンピュータ教室
講師：青木繁伸(群馬大学社会情報学部)
井上達紀(立教大学社会学部)
参加費：4,000円(含教材費)

このセミナーでは，参加者一人一人がコンピュータを操作し，行動計量学において役に立つサイトの訪問，インターネット上での統計解析等を体験してもらいます．参加者一人につき一台のコンピュータを用意します．なお，アシスタントを配置しますので，コンピュータやインターネットが初めての方でも遠慮なくご参加ください．

詳細や申し込み方法につきましては，第26回大会プログラム送付の際に同封しましたパンフレットをご覧ください．

チュートリアルセミナーに関する問い合わせは，立教大学社会学部山口和範(TEL:03-3985-2325, FAX:03-3985-2833,e-mail:kyamagu@rikkyo.ac.jp) まで．

第66回行動計量シンポジウム

ー社会科学におけるゲーム理論の応用と可能性ー

日時：1998年11月7日(土) 13:00～17:00
(受付開始時刻 12:30)
場所：統計数理研究所講堂
(東京都港区南麻布4-6-7
地下鉄日比谷線広尾駅徒歩7分)
主催：日本行動計量学会
企画：佐藤 嘉倫(東北大学文学部)
照会先：日本行動計量学会 岡太 彬訓(立教大学社会学部)
TEL 03-3985-2319 FAX 03-3985-2833
e-mail okada@rikkyo.ac.jp
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

行動計量学のためのインターネット (5)
—インターネットからの情報発信と著作権

立教大学社会学部産業関係学科 安田 雪

「すべて人は，自由に社会の文化生活に参加し，芸術を鑑賞し，及び科学の進歩とその恩恵とにあずかる権利を有する．すべて人は，その創作した科学的，文学的又は美術的作品から生ずる精神的及び物質的利益を保護される権利を有する．」(世界人権宣言(1948年12月10日，国連総会採択)第27条1項，2項)

インターネットはその情報収集の利便性が大きくクローズアップされているが，それだけのツールではない．今回は，情報を発信する立場からのインターネットの可能性を考えてみよう．

およそ研究者たるもの，研究成果の公開は使命である．研究成果の公開は，研究者の職務の一貫であるとともに，地位の向上や昇進のためといった個人的な動機に基づくこともあろう．これらの動機を否定するものではないが，忘れてならないのは，研究成果は広く社会に対して還元されるべきであることだ．例年どおりこの秋にも，文部省科学研究費研究助成の募集が始まる．科学研究費は国民の税金によるものであり，公けの税金を使って研究という任務を我々が担わせていただく以上，その成果を社会に我々が還元すべきであることを忘れてはならない．税金の使途について，研究者の良識が問われる点である．

文部省科学研究費の採択課題一覧及び科学研究費補助金研究成果概要は，学術情報センターのデータベースで公開されているが，(http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbmember/kaken-.html)，各研究の内容や成果の詳細までは踏み込んでおらず，一般に広く公開されてはいない．

研究者同士のみではなく，可能な範囲で，社会一般にむけて広く研究成果を公開していく体制をとるには，インターネットは最適なツールである．

研究成果の公開の王道は，学術雑誌への論文投稿，学会報告，報告書の刊行の3種類である．最新の研究成果をこのいずれかの方法で公開した後，全文，要約，あるいは一般にむけた書下ろしなどのかたちで，WWW上に研究成果を公開すること．これが今回の提案である．

その際，重要なのが，著作権の問題であろう．学術雑誌に掲載された時点で，論文の著作権は，原則として著者に帰属する．「原則として」というのは，数理社会学会など学会によっては，掲載された学術論文の著作権を学会がもつ場合があるためだ．このような体制の是非はさておき，著作権を著者が保持するのかあるいは学会が保持するのがを確認する必要がある．学会が論文の著作権を保持する場合には，自分の論文であれWWW上で公開することは難しくなる．この場合には，要約あるいは書き下ろしが必要になる．

報告書として発表される研究成果は，発行部数の少なさ，保存システムも不整備等の理由により，時間と共に入手が著しく困難になる．存在さえも知られないことも多い．これらは，デジタル化して WWW 上で保存・保存することにより，その価値が飛躍的に増大し，知的財産となる．

著作権情報センターの WWW サイトは，著作権について詳細かつ分かりやすい説明を提供している．URL は，

http://www.cric.or.jp/

である．ここには，「はじめての著作権講座」といった説明をはじめ，著作権関係法令集データベースまでを含んでいる．自分の研究成果の公開にあたってのルールや，他者の著作の引用についてなど，大変に有用で学ぶべきことが多いサイトである．

平成10年度第2回理事会議事録(案)

日 時:平成10年7月13日 PM6:00～8:00
場 所:大学入試センター
出席者:池田 央, 岩崎 学, 江川 清, 大隅 昇, 岡太彬訓, 駒澤 勉, 繁桝算男, 林 知己夫, 林 文, 前川眞一, 村上征勝, 柳井晴夫, 柳原良造, 山岡和枝, 吉野諒三, 吉村 功

議 題:

1. 平成9年度決算案及び平成10年度予算案について事務局より平成9年度決算案及び平成10年度予算案の説明があり了承された.

2. 第26回大会について

池田大会実行委員会委員長より, 第26回大会準備の進捗状況及び日程について, 以下の様な説明があった.

発表申込数: 一般セッション 69件, 特別セッション67件, 特別記念講演1, 招待講演2, シンポジウム2

入金申込状況:広告, デモ, 法人参加, 寄附等約110万円

日程:

9月15日(火) 公開シンポジウム, チュートリアル・セミナー

9月16日(水) 特別セッション, 一般発表, 招待講演(Bollen)

9月17日(木) 特別セッション, 一般発表, 招待講演(Meulman)

9月18日(金) 特別セッション, 一般発表

引き続き岡太委員よりチュートリアル・セミナーについての説明があった.

3. 第27回大会について

開催校の岡山大学垂水共之理事に代わり, 柳井理事長より, 第27回大会は平成11年9月20日(月)～22日(水)に倉敷市芸文館で開催する準備が進められているとの報告があった.

4. 学会賞について

吉村学会賞選考委員長より, 学会賞候補として, 功績賞1名、優秀賞1名の候補者を選考したことが報告され, この選考結果が承認された.

5. 名誉会員の推薦について

柳井理事長と岩坪名誉会員担当理事とで検討した結果, 今年度は名誉会員の推薦を見送るとの結論に達したことが報告され, これが了承された.

6. 2001年のサイコメトリックソサィティ・ヨーロッパミーティングの日本開催について

柳井理事長よりサイコメトリックソサィティ・ヨーロッパミーティングの説明があった後, 2001年に行動計量学会主催により日本で開催したいとの提案があった. 議論の結果, 委員会を構成し, 開催することの是非についての検討及び開催する場合にはその組織のあり方等について検討することとなった. なお, 検討委員会の委員については柳井理事長に一任することとなった.

7. 各種委員会報告

[編集委員会]

繁桝欧文誌編集委員長より, Vol.25.No.1 の編集は8月末までに終わる予定であること, 次の特集号のテーマを7月末までに決める予定であること, 及び Vol.25.No.2, Vol.21.No.1 の編集状況の報告があった.

池田編集委員長より, 著作権について, 池田委員長, 現和文誌, 欧文誌編集委員長, 前和文誌編集委員長及び吉野理事とで会合を持ち, ① 論文の著作権は日本行動計量学会に帰属する ② 自分の著作についての引用等は自己責任で処理する ③ 他人の著作についての引用等は著者が適切に処理する,等の方向で検討が進められているとの報告があり, この基本方針が了承された.

[運営委員会]

岡太運営委員長より, 以下の報告があった.

★以下の4つのシンポジウムを計画中である.

1.第 66 回シンポジウム(11/7/98)「ゲームの理論(仮題)」

2.言語の国際比較調査(仮題)

3.東北大学を中心とする小グループ研究会を中心としたもの

4. データ・ベースの構築とその問題点(仮題)

★セミナー「ビジュアル多変量解析早わかり～目にモノ見せる情報技術～」を6月19日に開催した. 参加者は60名

★講習会「ロジスティック回帰分析入門」を6月24日に開催した. 参加者は18名
★以下のセミナーを計画中
1. 第26回大会前日のチュートリアル・セミナー
2.合宿セミナー(1999年3月予定)
3.統計手法の実習を含めたもの
★ホームページの作成に伴う諸問題の検討
これに関して山岡広報担当理事より, 学会ホームページ作成ワーキンググループを発足させたこと, またホームページの開設に関する提言が報告され, 一部修正の後了承された.

8. その他
会員の入退会について
4月 正会員入会者6名, 退会者9名
準会員入会者1名, 退会者1名
5月 正会員入会者6名, 退会者1名
準会員入会者1名, 退会者1名
賛助会員入会2法人
が承認された.

日本学術会議の報告 1998年8月15日

第4部会員, 統計学研究連絡委員会担当
吉村 功

[1] 統計研連

第17期第3回の研連を7月31日に開きました. 議題の一つは, 科研費の分科細目の「統計科学」の審査員の候補者を推薦することでした. 現在この分科細目の審査は, 第1段階で3人の審査員が独立に各申請の評価を行い, 第2段で1人の審査員が第1段の結果を総合する, という仕組みになっています. 審査員は, 統計研連が定数の2倍の候補を推薦し, その中から, 専門分野, 地域, 機関, 年齢と性, 経歴等を考慮に入れて第4常置委員会が委員を選びます. 誰が審査員であるかは, 関係する結果がすべて終わった後(2~3年後?)でないと公表されません. このルールは2年前頃にできました. それ以前は全く非公開でしたから, 私自身もどなたが審査員経験者であるか, 正確には知りません. そういうルールなのは, 審査員の秘匿性がないと, 関係者が恨まれたり, 働きかけられたりして公平性が乱されるからでしょう. 「統計科学」では統計学的視点や方法論を社会的に広く活かしてもらいたいので, できるだけ多種多様な方々, 広い見識の方, という規準で候補を選び推薦を行いました.

これに関連したことですが, 最近, 「統計科学」での申請が減少しているようです. 特に, 規模の大きい申請が少ないという話です. 大勢の人を組織して研究を進めるのがしんどいからでしょう. でも現実の社会では統計学的研究が要求されていると思いますので, 「統計科学」での研究を組織し, 申請を試みて下さい. 次に述べることとも関連しますが, 既存の枠組みにとらわれない挑戦を期待します. 議題の他の一つは, 統計学における「パラダイムの転換」です. 私が学術会議の会員になったのは1年前ですが, 最近, 過去に学術会議が出した報告の資料が送られてきました. その中に, 前期(第16期)の第3常置委員会でまとめた「学術の動向とパラダイムの転換」という報告書がありました. パラダイムというのは, (より詳しくは報告書とその引用文献を読んでいただくとして,)素人的に説明しますと, 学問の枠組み, つまり何を問いかけ何に答えるのがこの学問か, ということです. そのパラダイムが近年大きく変化している, それを的確に捉えて学問の発展方向を見失わないようにしよう, というのが報告を作った趣旨なのでしょう. ところがその「統計」についての記述を見て唖然としました. こう書いてあるのです.

「統計学も応用と深く結びついた学問であって, その主たる研究方向は応用分野との関連で時代と共に変化している. かって生物統計学の方法論を一般化する形で記述統計学が盛んになったが, 最近では, 一部の標本から母集団を論じる推測統計学が種々の分野の問題解決に応用され発展している. この分野でも電子計算機の応用による方法論の新しい研究が進んでいる. 」

どうでしょう. これが「最近」でしょうか? これは50年前~30年前の状況ではないでしょうか? こういう枠組みでは我々が研究対象とする事柄, 社会から解決を求められている問題に対応できないということが, 現在, 統計学会などの関連学会や「統計の現場」で議論されていることではないでしょうか. この報告書

の記述はなるべく早く変えなければならないと思います．今度の研連ではこういうような話題をとりあげました．そしてこれからの「統計科学」とはどのようなパラダイムで考えるべきかを整理し報告することを今期の研連の課題にすることにしました．次回の統計研連は，9月14日に行います．もし語彙検討がありましたら，身近にいる研連委員に伝えて下さい．シンポジュームも計画しようと考えています．

その他に，統計数理研究所で進んでいる改革のこと，統計学研連の英文名称を・Liaison Committee for Statistics ・したこと，国際調査統計家協会(IASS)がCochran-Hansen 賞を制定したこと、などの報告もありました．

[2] 学術会議の総会と部会

第128回総会が4月22日～24日に，第4部の部会が，4月21日，第4部会の夏部会が7月2日に行われました．

一般の研究者が注目すべきことの一つは，行政改革にともなう省庁改編と国立研究機関の再編成ではないでしょうか．具体的にどうなるかはまだ分かりませんが，平成9年12月3日に出された行政改革会議の最終報告では，国立研究所の一部を独立行政法人にすることを検討することになっています．第4部(理学)は，第5部(工学)と連携してこの問題について研究者の意見をまとめて方針に反映させる方向で議論をしました．

学術会議はとりあえず，総務省の管轄に入りそうですが，その後にどのような役割変化を求められるかは未定で，これについても必要に応じて発言することになりました．

クローン人間の研究は慎重に，ということも議論されましたが，何しろ先端的なことですから，専門家の議論を待つことになりました．

以上

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆日本応用心理学会第65回大会
会 期:1998年9月5日(土)～6日(日)
会 場:龍谷大学文学部
照会先:龍谷大学文学部田中昌人研究室
Tel:075-343-3442 FAX:0775-72-3474

☆日本性格心理学会第7回大会
会 期:1998年9月9日(水)～10日(木)
会 場:吹田メイシアター
照会先:大会準備委員会
大阪学院大学人間行動研究室内
〒564-8511 大阪市吹田市岸辺南2-36-1
Tel;06-381-8434(代表) Ext,5432
FAX:06-382-4363
E-Mail;sogon@center.osaka-gu.ac.jp

☆日本健康心理学会第11回大会
会 期:1998年9月20日(日)～22日(火)
会 場:文化女子大学
照会先:文化女子大学 川崎 徹
Tel:0423-27-8802 Fax:0423-24-8660

☆日本グループダイナミックス学会第46回大会
会 期:1998年9月26日(土)～27日(日)
会 場:名古屋大学
照会先:名古屋大学教育学部 吉田俊和
Tel:052-789-2647 Fax:052-789-2651

☆第26回数理社会学会
会 期:1998年9月26日(土)～27日(日)
会 場:関西大学
照会先:大会事務局
関西大学社会学部 高瀬武典
〒565-0073 吹田市山手町3-3-35
Tel: 06-388-1121(内線5537)
Fax:06-337-5423

☆日本心理学会第62回大会
会 期:1998年10月8日(木)～10日(土)
会 場:東京学芸大学小金井キャンパス
(東京都小金井市貫井北町4-1-1)
照会先:大会準備委員会
(財)日本学会事務センター内
〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9
Tel:03-5814-5800 Fax:03-5814-5823
大会WEBページ
http://www.u-gakugei.ac.jp/~jpa98/
E-mail: jpa98@u-gakugei.ac.jp

☆電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会1998年度第3回研究会
会 期: 1998年10月11日(日)
会 場: 日本大学文理学部
テーマ: 「顔の知覚・認知及び一般」
照会先:山田 寛(日本大学文理学部)
ヒューマンコミュニケーション基礎研究会幹事
Tel 03-5317-9720／Fax 03-5317-9427
E-mail kan@chs.nihon-u.ac.jp

☆応用統計学会第20回シンポジウム
会 期:1998年10月26日(月)～27日(火)

会 場:大阪大学コンベンションセンター
〒565-0871 吹田市山田丘1-1
テーマ:モデル選択 ── 情報量規準, MDL規準とその応用 ──
照会先:応用統計学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9
大和ビル2F
(財)統計情報研究開発センター内
Tel & Fax 03-5467-0484 (火, 金曜の10:00～15:00) E-mail: applstat@sinfonica.or.jp
※チュートリアルセミナー有, 別記参照

☆統計数理研究所公開講演会
日 時:1998年11月4日(水) 13:30～15:30
場 所:統計数理研究所講堂
(事前予約不要, 入場無料)
講演題目:「非線形ダイナミックスと統計科学」
1. 日常の中の非線形
田村 義保(統計数理研究所)
2. カオス・複雑系を解く非線形解析の基礎概念と普遍法則
── 確率安定性, 相乗性結合, 確率共鳴, 非定常性, 位相乱流──
金野 秀敏(筑波大学)
3. 複雑な系の非線形時系列モデリング
── 予測誤差ゼロへの嗜好と志向──
尾崎 統(統計数理研究所)
照会先 統計数理研究所公開公講演係
Tel. 03-3446-1501(代)
Fax. 03-3446-1695, 03-5421-8796
E-mail nakajima@ism.ac.jp
WEB ページ http://www.ism.ac.jp/

☆日本社会心理学会第39回大会
会 期:1998年11月7日(土)～8日(日)
会 場:筑波大学第二学群及び第三学群棟
(つくば市天王台1-1-1)
照会先:大会準備委員会事務局
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学心理学系内
FAX 0298-53-6713 / TEL 0298-53-6779
E-mail: social39@human.tsukuba.ac.jp
大会WEB ページ
http://www.human.tsukuba.ac.jp/~social39/

☆日本スポーツ心理学会第25回大会
会 期:1998年11月12日(木)～13日(金)
会 場:滋賀大学
照会先:日本スポーツ心理学会事務局
Tel:03-5317-9717 Fax:03-5317-9426

☆第12回日本計算機統計学会シンポジウム
会 期:1998年11月17日(火)～18日(水)
会 場:鳴門市地域地場産業振興センター
照会先:シンポジウム事務局
〒560－8531 豊中市待兼山町1－3
大阪大学 大学院 基礎工学研究科
情報数理系専攻 数理科学分野
日本計算機統計学会第12回シンポジウム
事務局 坂本 亘・濱鍛文子・杉本知之・山村亜由子
Tel: 06-850-5689, 06-850-5691, 06-850-6490
Fax: 06-850-5694, 06-850-6496
E-mail: bra-goto@sigmath.es.osaka-u.ac.jp

＜チュートリアル類＞
☆応用統計学会チュートリアルセミナー
日 時:1998年10月26日(月)
会 場:大阪大学コンベンションセンター
〒565-0871 吹田市山田丘1-1
テーマ:不完全データの解析 ── 基礎と実際 ──
参加費:応用統計学会正会員2,000円, 非会員5,000円, 学生1,000円
照会先:応用統計学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9
大和ビル2F
(財)統計情報研究開発センター内
Tel & Fax 03-5467-0484 (火, 金曜の10:00～15:00) E-mail: applstat@sinfonica.or.jp

☆統計数理研究所公開講座
Ⅰ.要論A「数理計画法」(21時間)
日 時:10月19日(月)～10月22日(木)
19日～21日 10:00～16:00
22日 10:00～17:15
場 所:統計数理研究所講堂
(地下鉄日比谷線広尾下車約7分)
内 容:この講座では, 線形計画問題, 非線形計画問題, 組み合わせ最適化問題などの基本的な問題のみならず, 最近話題になっている半正定値計画問題, 2次制約2次計画問題, 半無限計画問題等もとりあげ基礎から応用まで平易に解説する.
定 員:70名(先着順)
講習料:8,400円(税込)
申込受付:9月7日(月)～9月25日(金)

Ⅱ.要論B「基礎からの情報幾何」(15時間)
日 時:11月25日(水)～11月27日(金)
10:00～16:00
場 所:統計数理研究所講堂
(地下鉄日比谷線広尾下車約7分)
内 容:このコースでは大学学部生初年級の知識を仮定した下で, 情報幾何のABCから統計学に関連した内容について講義する. 情報幾何の基礎アイテムとして, 情報計量, 双対線形接続, 第二基本形式, 可積分性, ポテンシャル関数, 勾配ベクトル場, 指数型分布族の双対平坦性, EMアルゴリズムの双対射影について詳解する. 次に統計理論, ニューラルネット論の話題から
●ベイズ予測分布
●推定方程式の無限次元情報幾何
●確率場の最大値の分布
●概パラメトリック推測

●自己組織化による主成分分析
●学習理論の情報幾何
について紹介する.
受講者は微分幾何の初等的知識または, 数理統計学の基本知識があることが望ましい.
定　員:70名(先着順)
講習料:6,400円(税込)
申込受付:10月12日(月)～10月30日(金)

Ⅲ.「わかる多変量解析」(15時間)
日　時:12月8日(火)～12月10日(木)
10:00～16:00
場　所:統計数理研究所講堂
(地下鉄日比谷線広尾下車約7分)
内　容:多変量解析の入門コースとして, 統計学や多変量解析の応用に重点を置いた講義を行う. 多変量解析の細かな理論にあまり関心はないが, 実際のデータを用いて解析を行う必要があり, その前にあらかじめ多変量解析の考え方を理解しておきたい人向け. 例題は, 実際のデータに基づくものを使用し, とくに生活習慣や健康診断データなどの, 公衆衛生学的なデータを用いて説明を行う. 判別分析と多重ロジスティックモデルとの関係や, 比例ハザードモデルなどについても分かりやすく紹介する.
定　員:100名(先着順)
講習料:6,400円(税込)
申込受付:10月26日(月)～11月13日(金)

以上いずれも詳細は
詳細は下記WEBページを参照のこと.
照会先:統計数理研究所公開講座係
〒106-8569 港区南麻布4－6－7
Tel.　03-5421-8720
Fax.　03-3446-1695, 03-5421-8796
E-mail　nakajima@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/

公募情報

以下の公募は, 応募期限の早い順に並んでいます. 研究者等の公募情報については, 文部省学術情報センターの「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい.
http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm
ただし, 以下には, 同ページに含まれない情報も掲載される場合があります. 今回は公募の多い時期です. 下記に紹介できなかったものの他にもたくさん, 会員の皆様に関係しそうな公募が出ているようです(特に社会学関係などが目につきます).

☆統計数理研究所
Ⅰ.所属:調査実験解析研究系
1. 職名・人員　文部教官教授　1名
2. 研究分野等　データ獲得の方法とデータ解析の方法の研究
3. 採用予定時期　平成11年1月1日以降の早い時期
4. 応募期限　平成10年9月14日(月)

Ⅱ.所属:統計基礎研究系
1. 職名・人員　文部教官助教授　1名
2. 研究分野等　統計理論一般
3. 採用予定時期　平成11年1月1日以降の早い時期
4. 応募期限　平成10年9月14日(月)

Ⅲ.所属:領域統計研究系　人文社会科学領域研究部門
1. 職名・人員　文部教官助手　1名
2. 研究分野等　人文・社会科学における, 統計手法の理論的研究及び統計的実証分析
3. 採用予定時期　平成11年1月1日以降の早い時期
4. 応募期限　平成10年9月14日(月)

○照会先(上記Ⅰ Ⅱ Ⅲいずれも)
〒106-8569　東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所　管理部庶務課人事係
TEL 03-5421-8707,FAX 03-3443-3552
WEBページ http://www.ism.ac.jp/

☆小樽商科大学商学部
1. 職名・人員　助教授または講師1名
2. 所属学科　商学部社会情報学科計画科学講座
3. 担当科目　統計学基礎, 統計科学, 応用統計(社会計画を担当することもあり)及び大学院関連科目
4. 応募期限　平成10年9月16日
5. 照会先　小樽商科大学　庶務課人事係
〒047-8501　小樽市緑3丁目5番21号
電話　0134-27-5208
URL: http://www.otaru-uc.ac.jp/

☆奈良大学社会学部
1. 職名・人員　助教授または専任講師　1名
2. 担当科目　社会構造論, 社会統計学, 社会調査法実習ほか
3. 就任時期　1999年4月1日
4. 応募期限　1998年9月18日
5. 照会先　奈良大学社会学部総務課
〒631-8502　奈良市山陵町1500
Tel: 0742-44-1251 Fax: 0742-41-0650

☆日本社会福祉事業大学社会福祉学部
1. 職名・人員　助教授または専任講師　1名
2. 領域　理工系の学問基盤に基づき, 社会工学, 情報科学, 医療及び保健福祉情報等を専攻もしくは研究領域とし, 情報教育に関心と熱意のもてる者.
3. 採用予定日　平成11年4月1日
4. 応募期限　平成10年9月21日
5. 照会先　学校法人日本社会事業大学総務課
〒204-8555　東京都清瀬市竹丘3-1-30

Tel: 0424-92-6111(代表) Fax: 0424-92-6816

☆広島修道大学人文学部(再掲載)
1. 職名・人員 教授, 助教授または講師 1名
2. 担当学科目 社会学研究法
3. 応募期限 1998年9月30日
4. 照会先 広島修道大学 人事課
〒731-3195 広島市安佐南区大塚東 1-1-1
Tel: 082-830-1105 FAX: 082-830-1325

☆常磐大学人間科学部
1. 職名・人員 教授および助教授(計3名)
2. 所属学科 コミュニケーション学科
3. 専攻分野 対人コミュニケーション領域(A)あるいはマス・コミュニケーション領域(B)で, 下記担当予定科目に示すものの担当が可能であれば専攻分野は特定しない.
4. 担当予定科目 (A)対人相互作用論, 集合行動論, 対人認知の心理学 のうちの1科目以上を含め, 他に関連する数科目 (B)マス・コミュニケーション理論, メディア論, 情報社会論の内1科目以上を含め, 他に関連する科目
5. 応募期限 平成10年9月30日
6. 照会先 常盤大学人事部人事課
〒 310-8585 水戸市見和 1-430-1
TEL 029-232-2540

☆新潟大学理学部
1. 職名・人員 教授 1名
2. 所属 数学科
3. 専門分野 統計数学, 応用数学, 情報数学またはそれに関連する分野
4. 採用予定日 1999年4月1日
5. 応募期限 1998年10月9日
6. 照会先 新潟大学理学部数学教室吉原久夫
〒950-2181 新潟市五十嵐2の町 8050
Tel & Fax 025-262-6325
E-mail yoshihara@math.sc.niigata-u.ac.jp

☆福島大学行政社会学部
1. 職名・人員 助教授または講師 1名
2. 授業科目 情報管理論
(1) 情報管理論を担当できる者
(2) 多変量解析, 分散分析などを含む統計的手法(ソフトウェアの利用も含む)を用いた研究を行っていることが望ましい.
他応募資格及び条件等あり
3. 応募期限 平成10年10月9日
4. 照会先 福島大学行政社会学部庶務第一係
〒960-1296 福島市松川町浅川字直道2番地 Tel: 024-548-8252

☆文教大学情報学部
1. 職名・人員 教授, 助教授, 講師のいずれか1名
2. 所属予定学科 経営情報学科
3. 専攻分野 マーケティング
4. 担当科目 マーケティング論, 市場調査, 情報処理関連科目, ゼミナールを担当できること
5. 勤務場所 文教大学湘南校舎
神奈川県茅ヶ崎市行谷 1,100 番地
6. 採用予定日 平成11年4月1日
7. 応募期限 平成10年10月17日
8. 照会先 文教大学情報学部経営情報学科長 坪井順一, 文教大学湘南校舎総務課長 角田和昭 Tel: 0467-53-2111(代表) 0467-54-3703(総務課ダイヤルイン)

☆新潟大学経済学部
1. 職名・人員 助教授または講師 各科目1名
2. 所属学科 経営学科
3. 担当科目 下記の6科目
(1) マーケティング論
(2) 企業経済学
(3) 経営統計
(4) 簿記論
(5) 経営社会学
(6) 経営情報学
4. 採用予定日 1998年4月1日
5. 応募期限 1998年10月31日
6. 照会先 新潟大学経済学部庶務係(高橋)
Tel: 025-262-6521 Fax: 025-262-1134

☆岡山大学教育学部
1. 職名・人員 助教授または講師 1名
2. 所属講座 学校教育学講座(教育心理学分野)
3. 専門研究領域 教育評価・測定領域
4. 担当予定授業科目
学部:「教育評価・測定」「教育評価・測定演習」「教育統計学」「教育心理学概説」「教育心理学実験」その他
大学院:「教育評価法特論」「教育評価法特論演習」
5. 採用予定日 平成11年4月1日
6. 応募期限 平成10年10月31日
7. 照会先 岡山大学教育学部庶務係
〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1
Tel: 086-251-7584

☆埼玉大学教育学部
1. 職名・人員 助教授または講師 1名
2. 所属 学校教育(教育臨床講座)の予定
(上記の講座は, 概算要求中であり所属が標記と異なる場合もある)
3. 専攻分野 情報科学, 教育工学
4. 担当科目
共通教育科目:情報基礎
学部:教育臨床概説(コンピュータによる学習支援), 教育臨床特論(同前), 教育学概説(方法・技術), 教育臨床演習, 総合演習
(助教授採用の場合は, 大学院の教育方法学演習, 教育方法特論を担当する)
5. 採用予定日 1999年4月1日
6. 応募期限 1998年10月31日
7. 照会先 埼玉大学教育学部 情報教育人事担当 土肥俊郎
〒338-8570 埼玉県浦和市下大久保 255
Tel: 048-858-3235,

E-mail: doy@sacs.sv.saitama-u-ac.jp

会員の著作物

佐藤嘉倫著「意図的社会変動の理論—合理的選択理論による分析」東京大学出版会 1998 年

市川伸一著 心理学から学習をみなおす(岩波高校生セミナー2) 岩波書店, 1998.

市川伸一著 確率の理解を探る--3囚人問題とその周辺--. 共立出版, 1998.

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています.
詳しくは,
〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい.

行動計量学会会員数

(1998年8月現在)

正会員	932人
準会員	42人
名誉会員	6人
賛助会員	21社

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」
〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」
〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

編集後記

いよいよ第26回日本行動計量学会大会があと2週間で開催となります. 今回は東京池袋の立教大学開催で, 交通の便も大変便利なところです. シンポジウム, チュトリアルセミナーなども盛りだくさんです. ぜひ, 御出席ください.

会報を会員相互のコミュニケーションの場としても, 活用して下さい. 会員の皆様からの御意見など, お待ちしております.

原稿の送り先は次の通りです.

会報原稿送付先

〒173 東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)